

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第66期第2四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)につきましては、積極的な学術情報提供活動を進め主要新製品の売上増加により微増収となりましたが、開発パイプラインの拡充に伴う研究開発費の増加などにより、減益となりました。

現在、医薬品業界においては、新薬創製成功率の低下や世界的な研究開発コストの増大に加え、医療費抑制政策の進展など、厳しい環境が続いています。このような事業環境のなか、当社は、新薬開発型医薬品企業として持続的な発展を実現するために、開発パイプラインの拡充、海外展開の推進に取り組むとともに、企業基盤の強化に努めています。

なお、当社は、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により、比較可能性を高め、ステークホルダーの皆さまの利便性向上を図るために、平成26年3月期決算から国際会計基準(IFRS)を導入します。詳細については、中ページをご覧ください。

開発パイプラインの拡充

持続的成長のためには、開発パイプラインを拡充し、継続的に新薬を市場に送り出していくことが不可欠です。世界最先端の技術を活用した、独創的かつ画期的な医薬品創製を加速する取り組みを進めるとともに、引き続き新薬候補化合物の導入活動にも注力し、今後も継続的な新薬上市に繋がる開発パイプラインの拡充に努めます。また、臨床試験では有効性と安全性を早期に確認し、新薬開発のスピードアップにも努めていきます。

海外展開の推進

自社創製の新薬を世界中でご使用いただけるよう、海外における臨床開発を推進するとともに、海外提携企業への導出を通じ、自社創製化合物の海外での上市を目指しグローバルな事業展開を推進します。また、海外展開を見据えた人材育成に取り組んでいきます。

企業基盤の強化

グローバルレベルでの競争力向上のため、人材の育成と活性化に努めます。また、多様性の向上や社内外の連携強化により、さまざまな環境変化への対応とイノベーションの実現を図ります。さらにCSR活動の一層の推進に取り組めます。

わたしたちは、「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けていきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立されたモニュメント。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 **相良 暁**